

科目ナンバー	C7407	要件	教職必修 保育必修	授業形態	演習	対象学生	II A C D
授業科目	保育内容演習（言葉）						
実施期	前期	単位数	1 単位	授 業 担 当 者	藤 戸 輝 子		
【科目の概要】							
言葉による表現する力だけでなく、人の話を聞く力、理解する力、イメージする力、人と関わる力など総合的に言葉の発達を学ぶ。また、「言葉」を豊かに育むための保育者の役割や保育環境について学ぶ。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							
ア	子どものことばの発達についての基礎的な知識を習得している。						1-d
イ	子どもが安心して自己表現できるような関わりができる。						2-d
ウ	子どもの実態や状況を判断し適切な言葉かけを考えることができる。						3-c
エ	保育者として、子どもの内面に添える感性を磨く努力をしている。						4-b
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	「ことば」の役割とは			月 日	言葉の役割を整理する。(0.5時間)		
2	乳幼児のことばの発達と、それに伴う諸発達と保育者の役割			月 日	発達に応じた保育者の役割を整理する。(0.5時間)		
3	子どもの言葉を引き出す「ことば遊び」の種類と展開			月 日	「言葉遊び」の保育展開が発表できるよう準備をする。(0.5時間)		
4	発表：「ことば遊び」の実際と子どもの育ち			月 日	「子どもの育ち」の整理をする。(0.5時間)		
5	領域「言葉」の「ねらい」「内容」「内容の取り扱い」の理解			月 日	「内容の取り扱い」のポイントを整理する。(0.5時間)		
6	言葉を育てる環境 子どものタイプに応じた言葉かけ			月 日	場面に応じた言葉かけが説明できるよう資料を塾読する。(1時間)		
7	日常生活での言葉かけ（発表）（獲得を目指す力の確認）			月 日	他者の発表を聞き、指導のポイントを整理する。(0.5時間)		
8	トラブル時の言葉かけ（発表）			月 日	他者の発表を聞き、指導のポイントを整理する。(0.5時間)		
9	先生にとって困る行動に対する言葉かけ（発表）			月 日	他者の発表を聞き、指導のポイントを整理する。(0.5時間)		
10	保育者の豊かな言語表現を支える小道具の活用			月 日	作成する小道具の検討、決定をする。(0.5時間)		
11	保育者の豊かな言語表現を支える小道具と指導の細案の作成			月 日	模擬保育に向けた細案の作成と練習をする。(1時間)		
12	模擬保育：小道具を使った子どもとの対話（1班）（発表）			月 日	他者評価の記録(0.5時間)		
13	模擬保育：小道具を使った子どもとの対話（2班）（発表）			月 日	他者評価と自己評価の記録(0.5時間)		
14	幼児の内面の理解と保育者の感性・表現力			月 日	全15回の授業を振り返り、ノートの整理をする。(0,5時間)		
15	保育者としての美しい言葉遣い まとめ			月 日			
16				月 日			
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
「保育者のための言語表現技術」編著 古橋和夫 萌文書林 ※ 保育表現技術（言語表現）の授業でも使用				授業態度・意欲 30%、 提出物とその他の課題 40% 確認テスト 30%			
【参考書・教材】 保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説 「子どもへの言葉かけ」ハンドブック							
【履修要件及び履修上の注意事項】 この授業専用のノート（A4サイズ）を作成すること。随時回収し、評価の対象とする。 授業中の討議や発表、グループ活動への参加、振り返り等もすべて評価の対象とする。							
【履修上の遵守事項】							
【連絡先・オフィスアワー】							
連絡先：N15				オフィスアワー：			

〈チェックシート〉					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア ①	「言葉」の発達の理解		言葉の発達についておおよその流れを述べることができる。	それぞれの年齢における言葉の発達における特徴を述べるができる。	小学校以降の生活や学習にどう繋がるのか述べるができる。
ア ②	「言葉」の発達に伴う他の発達の理解		言葉の発達に伴い、他の側面で、どのような発達が促されるのか述べるができる。	言葉の発達を中心に、諸々の発達を促すための遊びや活動を述べるができる。	言葉の発達を中心にした遊びを通して、諸々の発達を促すために保育者の配慮を述べるができる。
イ ①	子ども理解に基づく保育者の援助		子どものタイプによって言葉のかけ方をどう配慮するか、3つのタイプをあげて説明ができる。	子どもの気持ちを理解した望ましい言葉かけの例を5つ挙げるができる。	望ましい言葉かけと、言っではいけない言葉かけの例も併せて5つ挙げるができる。
イ ②	小道具を活用できる技能		子どもとの対話に活用できる小道具を作成できる。	模擬保育に於いて、小道具の活用の仕方がわかり、子どもとの対話ができる。	模擬保育に於いて、小道具を使って子どもとの対話を楽しむことができる。
ウ ①	子どもの行動事例をもとにした状況判断		子どもの行動事例から、子どもそれぞれの思いや感じ方を述べるができる。	子どもの実態や状況などを予想して、適切な声かけを述べるができる。	状況に応じて配慮すべき点を判断し、述べるができる。
ウ ②	模擬保育における、状況に応じた助言の判断		状況に応じてどのような言葉かけが必要か述べる事ができる。	模擬保育において、状況に応じた関わり方を考え、言葉かけをかけることができる。	模擬保育において、子どもに分かりやすい言葉を判断し言葉かけをかける事ができる。
エ ①	子どもの内面に寄り添える感性の開発		子どもの行動事例を通して、様々な状況にある子どもの気持ちを理解しようとしている。	日常生活で、色々な人との関わりにおいて、相手の気持ちに添う言葉かけができる。	実際に子どもと関わる機会をもち、子どもの気持ちを理解しようとしている。

この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等